

2022年8月5日
一般財団法人日本エネルギー経済研究所

アブドラ国王石油研究センター（KAPSARC）との協業に向けた覚書の調印について

一般財団法人日本エネルギー経済研究所（理事長：寺澤達也、以下、日本エネルギー経済研究所）は、本日、サウジアラビアのシンクタンクであるアブドラ国王石油研究センター^{※1}（所長：Mr. Fahad Alajlan、以下、KAPSARC）と今後の研究調査活動の連携・協力に関する覚書に調印いたしました。調印式は、KAPSARCが第43回IAEE（国際エネルギー経済学会）国際会議（8月1日から3日、政策研究大学院大学にて開催）に参加するため来日した機会に日本エネルギー経済研究所で行われました。

サウジアラビアは世界有数の産油国であり、石油市場動向を左右する石油輸出国機構（OPEC）並びにOPECプラスにおいて最も影響力のある国です。また、CO₂排出削減に貢献する水素・アンモニアのサプライチェーン構築に積極的に取り組み、化石燃料の脱炭素化を含む炭素循環経済の構築推進を図るなど、カーボンニュートラル実現へのエネルギートランジションにおいて極めて重要な役割を果たしうる国です。

日本エネルギー経済研究所は2020年にサウジアラビアからのブルーアンモニア輸送に係る実証試験^{※2}を行うなど、同国との協力関係を深めており、カーボンニュートラル実現・エネルギー安全保障確保に向けてその関係をさらに発展させ、研究調査活動の連携・協力を強化することを目的にKAPSARCと覚書を締結いたしました。

今後は、本覚書に基づき、日本エネルギー経済研究所とKAPSARCは共同研究調査、イベントの共催、国際会議での情報発信などで協業を進めてまいります。

以上

^{※1} アブドラ国王石油調査研究センターはサウジアラビア王国において、エネルギー経済、政策、技術、環境等、多様な研究を行っている非営利・独立系のシンクタンク（King Abdullah Petroleum Studies and Research Center：KAPSARC）

^{※2} 日本エネルギー経済研究所とサウジアラビアン・オイル・カンパニー（サウジアラムコ）がサウジアラムコグループのサウジ基礎産業公社（SABIC）と協力してサウジアラビアで生産したブルーアンモニアを日本に向けて輸送する実証試験

2020年9月27日プレスリリース：<https://eneken.ieej.or.jp/press/press200927.pdf>

調印式の様子



(左：日本エネルギー経済研究所理事長 寺澤達也 右：KAPSARC 所長 Mr.Fahad Alajlan)

<広報担当窓口>

(一財)日本エネルギー経済研究所

企画事業ユニット

中山・宇野・名島

電話:03-5547-0211 FAX:03-5547-0223